

DC227
28

ボルネオの経営方針と東南部

地方交通整備の急務

野村合名会社海外事業部東京事務所

国立国会図書館



0022408-000

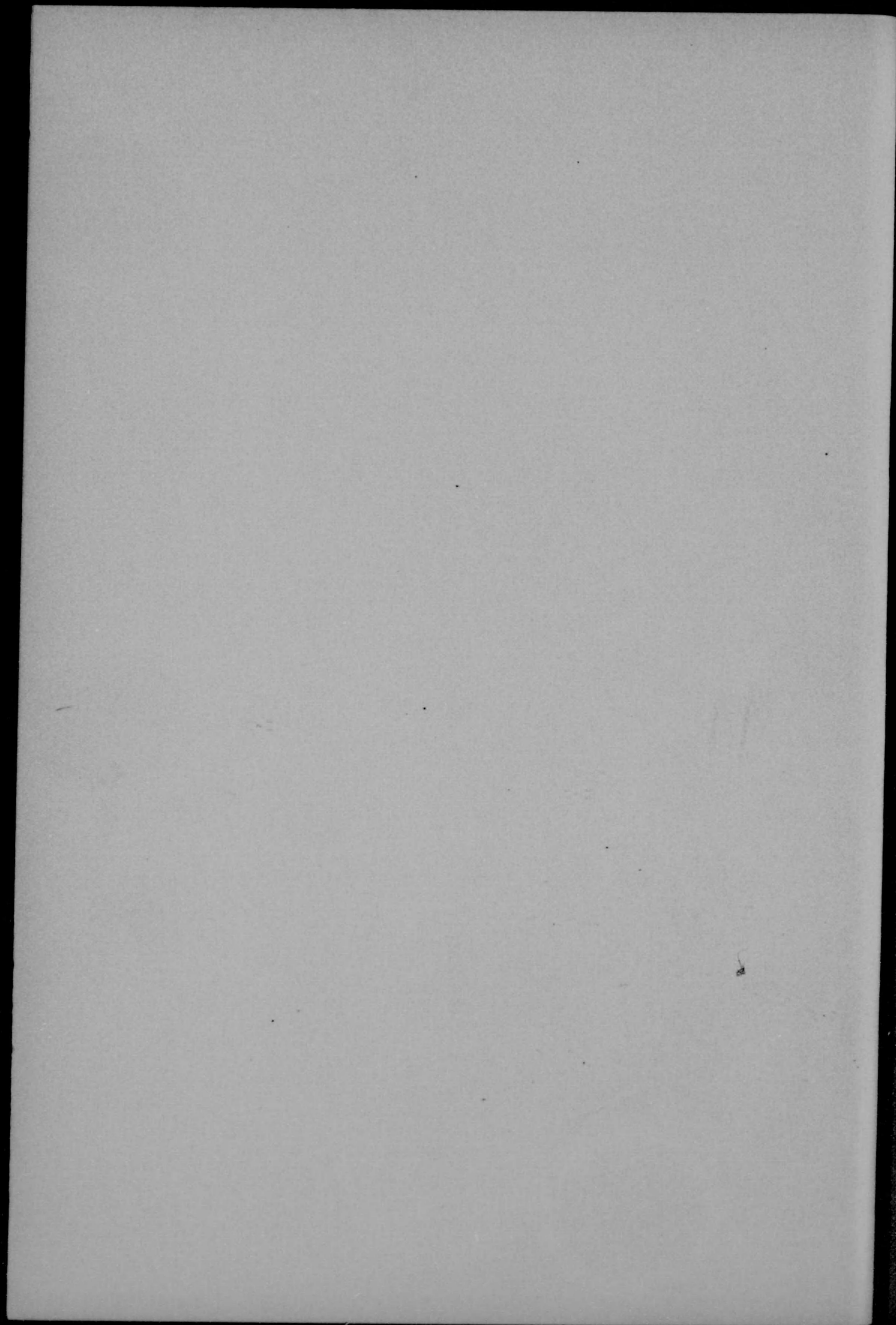
DC227-28

ボルネオの経営方針と東南部地
方交通整備の急務

野村合名会社海外事業部東京事務所

[194-]

ADC



7E13

東京女子美術大学
美術部
美術会
出品

美術会
東京女子美術大学
美術部
出品



DC227
28



82W16821

村松本才監督の根本方針

大東亞戦争は我々三才勢力を組織し、東亞に恒久の平和を樹立せん事を目的とするものなる故、是が前提には相争の時間を必要とする故暫くは休戦を俟たぬ俟つて、一面戦争、一面建設、血産に努めるに非ざれば、勝々たる成功の望みにも向かず戦争の真の目的には到達し得ないであらう。

故に本才に於ても、その政治態度も建設方針を樹立し、之を實踐せしむるべし。

然も此の方針如何と云ふに、本才も要するに大東亞共榮國、是即ちは全世界といふ一箇の有機體の一箇體である以上、共榮國、是即ちは全世界が本才に要求するもの、即ち、本才も本才の使命を免ず考へ、それの達成に努める事が必要である。その方針が即ち本才建設の根本方針に外ならぬのである。

然し、本才の如く、共榮國の中心より建設的進取に在り、一有機體の一部としての有機體には交通等の理由で前後多の困難が阻害されるに於いては、本才も本才の使命(有機體の一部としての地位)と共に、戦争進行期間中は本才も自體の自衛方針も考へしむるべし。

然も如何なる方針により、ポルネオは自給し、且夫他國に買取し得るた
食糧の増産、地下資源の開発、及び之に關連する東南部地方に於ける交通
の整備が之である。

ポルネオの復興

ポルネオ、特にその東南部地方は極めて豊富なる地下資源を賦して居り、
南洋政府の此の島に對する開發熱も、當初は實に此の領土物に由つて發生
せしめられたものであつた。(勿論之に先達も他南洋諸島に於けると同様
に香料の獲得熱も原因であつた) 即ち、一九世紀の中葉、南洋政府はその
海軍並に南洋領土の領土擴張等に努め、本島の東南地方に石炭、鐵礦等の
埋蔵豊富なる事を見出すや(ダイヤモンド、金はそれ以前より既に有名
であつた) 是が開發に積極的に関與し、全島にオランダの本島完全任務を
早めしめた。

石炭、鐵、及び二十世紀初葉に發見せられた石油等の重要資源は主と
して東海岸に集中されて居るので、その開發が進展して来りしへすれば此
の地方はパンヂヤルマツン、ウルヌンガイ、ボツチアナ地方と全島に、成
はそれ以上開發して来た筈である。

然るに開發は如何といふには、例を人種にとつて見ると、パンヂヤルマツン、
ウルヌンガイ兩聯合部八五萬五千人、面積五、六六〇平方哩、ボツチアナ、
ボツチアナ兩聯合部五六萬人、面積四、九二〇平方哩、一平方哩當り人口
六、二二五。二人、及び一。一人を以て計し、東海岸地方を總括するオマ
リツダ、ボツチアナ兩聯合部人口五五萬九千人、面積五、〇四〇平方
哩にて、一平方哩當り僅に一。八人にすぎぬ。有人口は一九三〇年の國に於
けるものであるが、今日に於いては鐵礦の如き事情(百ム景候)に依り開發
の進展は甚大である筈である。

是も開發は如何に由つて起つたか、

第一は、オランダ本國並に南洋の鐵工開發熱し居る爲め鐵礦資源の
開發の方を有しをかつた事、

第二は、オランダの南洋に對する經濟政策は南洋を以て専ら本國並に南洋
南洋への原料供給地とした事、

であつて、南洋南洋の工業の如きは殆んど顧みられなかつた事(南洋は
南洋に對しては工業、南洋、鐵工業が主と爲りつゝあるが、鐵工業は主
南洋に對して)

海産物等その値は何れも且落せまいのであるが、之等の國物資は其國の他の諸地域よりも豊富に供給されるので、ポルネオの、是等物資に依る其國への買入は高く評價され得ない。

其國がポルネオに買入ものは何としてもその價廉物を替いては有り得ない。此の要旨に依る事、是がポルネオ本邦の使命を達成する事である。

地下資源開發上の諸問題

其國にとりて現在最も重要とされるものは石油、鐵、石炭であるが、此の三者とも東海岸地方に豊富に埋蔵されてある。特に、石油並に石炭は北部に、鐵は南部に多い。然も、石油はパリタパパン、タラカン方面、並に北ポルネオ、石炭は東海岸一帯に有するが現在の産地はパリタパパン、タラカンの中間に在るランタウパンヂヤンが最も多く産出してある（年度五の算出）。鐵はラウト島を中心とする地方にもスンガイドウア、セブタ島等にして埋蔵量約四億八千萬噸と推せらる。此の方面に於いては相當の石炭をも産する故（一九二五年此の地方のスンダラップ石炭をドイツに運び試験せるに、九月の品質テストを繰り返す事が必要と爲た）、其地所産物が極めて有益とされる所である。

右の地方以外にも石炭はマルタプーラ附近（國人が最初目を付けたのは此れである）並にバリト河上流方面にも産出し（東南ポルネオの石炭産額は今の産年の八の算出）石炭はウルスンガイ地方のタンヂヨツ、バリヤン方面にも埋蔵されて居り、又、マルタプーラの奥地パンガヨツには極めて良質のマンガン鐵有り、又、金、白金、ダイヤモンドも有名である。

斯の如く豊富の重要なる國物資源に富んであるのであるが、全体的に見れば未だ殆ど未開發の地、開發されてある面積であるから、急遽に開發に着手せしめねばならぬ。

それには先づ勞務方を補助せねばならぬ、是には、賃金、食糧、ウラムンガイパンヂヤルマツン方面より供給するが、ポルネオ、ヂヤウよりも遙かに低不賃金でもあり、此の地方の勞力補助にはヂヤウよりの勞力移入が最も重要と成つて來ると思はれるが、之に就ては食糧問題とも關係する故一應切斷して考へる。勞力の補助食糧と食料に關係に成るのは食糧である。

現在でも此の東海岸地方は多量の食糧を輸入してある、然も、是は一九二八年、二九年、四〇年何れも約二萬一千噸（全部自由米と鑑定される）小麥約二千噸、その他は東南ポルネオ全体で約一千五百噸を占めるに同

し此の内、東海地方に入れらるものが一千噸余、約七、八割を占めてゐる、右に依りて見るに、此の地方の食糧不足は約三割程度であるが、右以外に東京府を中心とする内陸に於いて此の東海地方に導入されるものは相當有ると思はれるから、實際の食糧不足は五割位に上るものと思はれる。

是は、此の地方はヤマリアンが所産を供給し、由來が海産に依つてより充分の飼料を有しない事、身方が健康に保たれてゐる事に由るものであるが、今後健康増進の爲め此の地方に更に他よりの身方輸入が行はれるものとすれば、當地方の食糧供給は極めて困難化するものと思はれる。食糧の供給を何れに如何に確保の要も有り得ない。

然し是が重要ではウルスツガイ、並にパンヂヤルマクシツ方面にて産出される。斯くして食糧の増産、輸送、或は身方の供給等が行はれればならぬ事は、現在の交通設備を以てしては困難視されたい。

例交通整備の企図

東京、ボルネオの交通路に物資の輸送は海路に河川のみを依りて行はれて来た。

然し、戦前の日本時期に入れば、即ち七月頃より十月中旬位は、河川の舟行

は極めて困難なれりし、重要港たるパンヂヤルマクシツ、ヨタバル、パリクバシツ、ヤマリアン等はパリクバシツを供給地として、何れにせよ、充分なる物資供給に供し得ない。即ち、パンヂヤルマクシツ並にヤマリアン等は河川（パリト河並にマハカ河）より約四〇軒の上流にあり、河川は上流より河川をく貫する土砂の爲め極めて狭く、五〇〇〇噸（タリ）以上の船は入港不可、ヨタバルは河川に面してあるが河川にて之を運搬、即ちパリクバシツのものが運搬されるの運賃を割へてをり、その、貨物費の中心地にある事を併せて考へれば、東京、ボルネオの發展、並に大東亞大陸間陸路との交通は此の地を中心として行はるべきである。

而して此の發展の中心であり、且つ交通の基盤たるパリクバシツと、食糧供給の基盤にして且つ交通上の中心たるパンヂヤルマクシツとを結ぶの運輸手段は如何の用に供する事かであるが、パンヂヤルマクシツよりウルスツガイを經由、パリクバシツに達する輸送を改良し、且て海路に供する不便を除去、特に食糧供給の途を大なるべきウルスツガイとパンヂヤルマクシツ並にパリクバシツとの交通を便にせしめたい。

此のヨトスは、既にボルネオ方面に依り直として軍事上の必要から、土人

ボム島國境入を以て邊境の警備を見つゝ有つたものである。
即ち、パンデヤル方面並に東海岸方面の兩側より進工し、パンデヤル方面よりせるものは約五〇〇軒の文りたるムアラウヤなる地國並完成、此の地國の前方を越ぐ低き山並高（四〇〇米位）を越せば東海岸地方に入る。又、東海岸よりせるものは何の如度にも進歩し居るや不明なるも、恐らく有由國境並完成し居るものと見はれる、後國、此の邊境を先づ完成せしめ、次で此の地國に入りて警備を敷設する。
而して、有マリタバツ、パンデヤルマツ國境五〇〇軒の自動車國の完成、並に鐵道の敷設に次いで、更にマリタバツを中心としサマリダ島北上するもの、並に海岸線を南下して鐵道を中心スツガイドウア附近に置らしめそれより西行してブレイヤリを經由パンデヤルマツと結ぶ鐵道も敷設せばボム島才の發展は益々進歩するものと見はれる。

29 E 13

